

天敵利用ピーマン抑制栽培におけるうどんこ病に対する防除体系

農業総合センター園芸研究所

【研究の概要】

ピーマン栽培では、天敵利用により化学農薬を削減した害虫防除が普及しています。一方、うどんこ病に対して特に効果の高い薬剤は天敵への影響が大きいため使用が難しく、本病の防除に苦慮しています。そこで天敵に影響が少なくうどんこ病に効果が高い薬剤を選抜し、ピーマン抑制栽培での本病の発消長に合わせて適切な時期にローテーションで散布する防除体系を確立しました。



うどんこ病による葉の黄化と葉裏（左上）の症状

【研究内容】

①有効薬剤の探索

現地圃場のうどんこ病菌を用いて、本病に効果の高い薬剤を探索しました。

②防除体系の検討

現地圃場でのうどんこ病の発消長に合わせて、有効薬剤をその特性に応じた時期に、かつ系統をローテーションしながら組み合わせた防除体系を検討しました。

抑制栽培（購入苗）での防除体系

| 散布時期 | 農薬名（商品名）※1 |
|-------------------|---------------------------------|
| 天敵放飼直前 (8月上旬頃) | ピラジフルミド (ハレート207077®) |
| 9月上旬 | シフルフェニトド・トリフルミゾール (ハントゾTF顆粒) |
| 9月下旬 | ピラクロストロビン・ボスカリト (シクナムWDG) |
| 10月中旬 | ミクロブタニル（テラ）※2 |

※1 「水和剤」の表記は省略

※2 発生が目立つ場合はピラジフルミドを散布

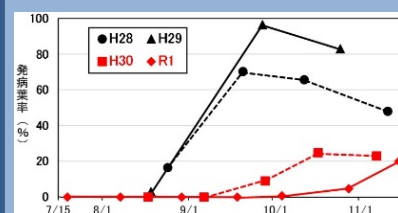
【研究成果】

①有効薬剤の探索

防除体系に用いる有効薬剤として、ピラジフルミド水和剤など4剤を選抜しました。

②防除体系の検討

構築した防除体系を所内や現地圃場で実施した結果、農家の慣行で防除を実施していた場合と比較して大きく発病が抑制され、高い効果が確認されました。



神栖市ピーマンハウスでの防除体系実施年（H30、R1）と農家慣行防除年（H28、29）のうどんこ病の発生推移

【将来の展望】

確立した防除体系は天敵を利用した栽培を行っている圃場でも実施できるため、害虫防除と同時にうどんこ病の持続的かつ安定的防除が可能となり、ピーマンの安定生産に寄与します。

